

「国際競技大会の招致・開催の取り組みの全体像とライフサイクル」

1-1 国際競技大会を招致・開催する意義/目的とは？

本講座の目的

- ▶ 国際競技大会の招致や開催に初めて取り組む自治体職員、競技団体、その他関係者の皆さまを対象として、その取り組みの全体像やポイントを学んでいただくことを目的としています
- ▶ 但し、国際競技大会は、その種目や大会としての特性、国際競技団体との契約内容等により、全てその内容は異なる点に留意してください。
- ▶ 本講座では、あくまで一般的なモデルや事例を踏まえた基礎的な内容をご紹介します

本講座のプログラム構成

No.	構成/テーマ	主な内容
動画 1-1	はじめに	本講座の目的をご説明します
	国際競技大会を招致・開催する意義/目的	「国際競技大会の招致・開催を社会・地域の課題解決にどう繋げていくか？」をテーマに、大会開催与える価値や、より効果を引き出すための取り組みの事例等をご紹介します
動画 1-2	国際競技大会の種類や違い～総合競技大会と競技別大会	「国際競技大会」と一口に言っても、様々な種類があります。その主な種類や違いをご紹介します
	国際競技大会の開催構造～国際競技団体/国内競技団体/開催都市の契約関係と役割分担	国際競技大会が開催されるにあたり、その契約関係や構造を、事例等を踏まえてご紹介します
	開催契約とは？～国際競技団体との折衝時における留意点	開催契約とは何か？から始まり、国際競技団体との折衝時の留意点などをご紹介します
動画 1-3	国際競技大会の招致～開催～レガシー形成までのライフサイクル	「招致」～「開催準備」～「開催」～「レガシー形成」までの流れと、それぞれのライフサイクルにおける留意点をご紹介します
	会場運営計画の立案	国際競技大会の種類によって、大会準備の手法は異なります。ここでは、総合競技大会の標準的なモデルであるFAOPやVOPについてご説明します
	レディネスプログラムとは？	国際競技大会の開催に向けて、事前に実施されるテストイベントや机上演習など、「レディネスプログラム」と呼ばれる取り組みについてご説明します
	プロジェクトクローズ～組織解散プロセス	国際競技大会の開催を終えた後、その開催効果をしっかりと検証すると共に、大会後に発生する様々な取り組みをご紹介します

受講におけるルール・注意事項

- ① 本講座は全 3 つの動画によって構成されています。
- ② 「手引き P.XX」と記載のあるページは、スポーツ庁「国際大会運営人材育成支援事業」ホームページ掲載の「国際競技大会招致・開催に係る手引き」上で該当するページ数を表示しています。
- ③ **各動画の後に確認テストの実施、全動画の最後に確認テストとアンケートを実施します。必ず全て実施してください。**
- ④ **講座についての質問事項、不明点、ご指摘事項、その他問い合わせ等がありましたら、次ページに記載の連絡先に問い合わせてください。**

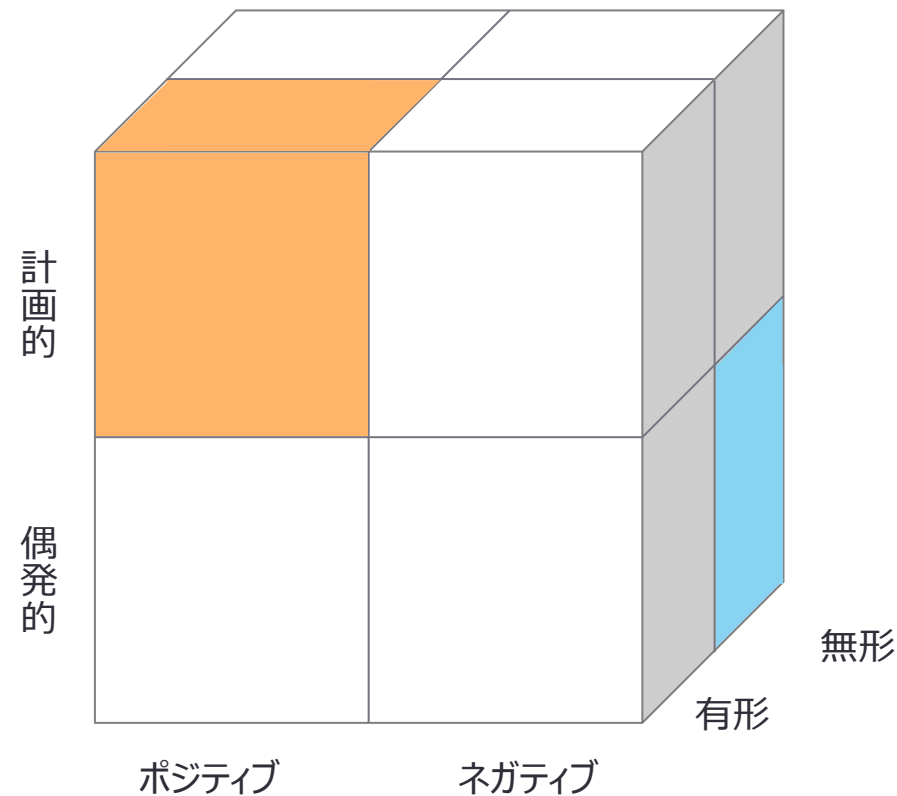
問い合わせ窓口メール： skokusai@mext.go.jp

国際競技大会を招致・開催する意義/目的とは？

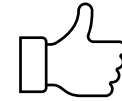
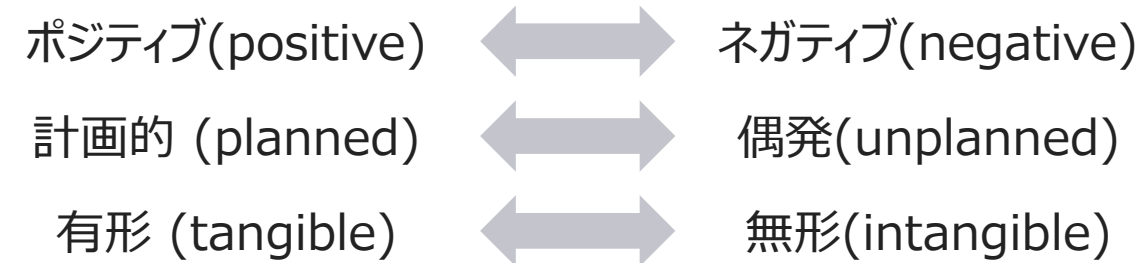
国際競技大会を開催することとは目的ではなく手段であり、
大会開催による価値や意義をどれだけ引き出せるかは
招致～準備～本番運営～大会後のフォローまでの
マネジメント次第です

国際競技大会の招致・開催の意義とは？

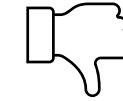
手引き P.13



国際スポーツ大会のレガシーに関する「レガシーキューブ」の考え方



【ポジティブ×計画的×有形】
例：競技会場やインフラ設備
の新設・改修



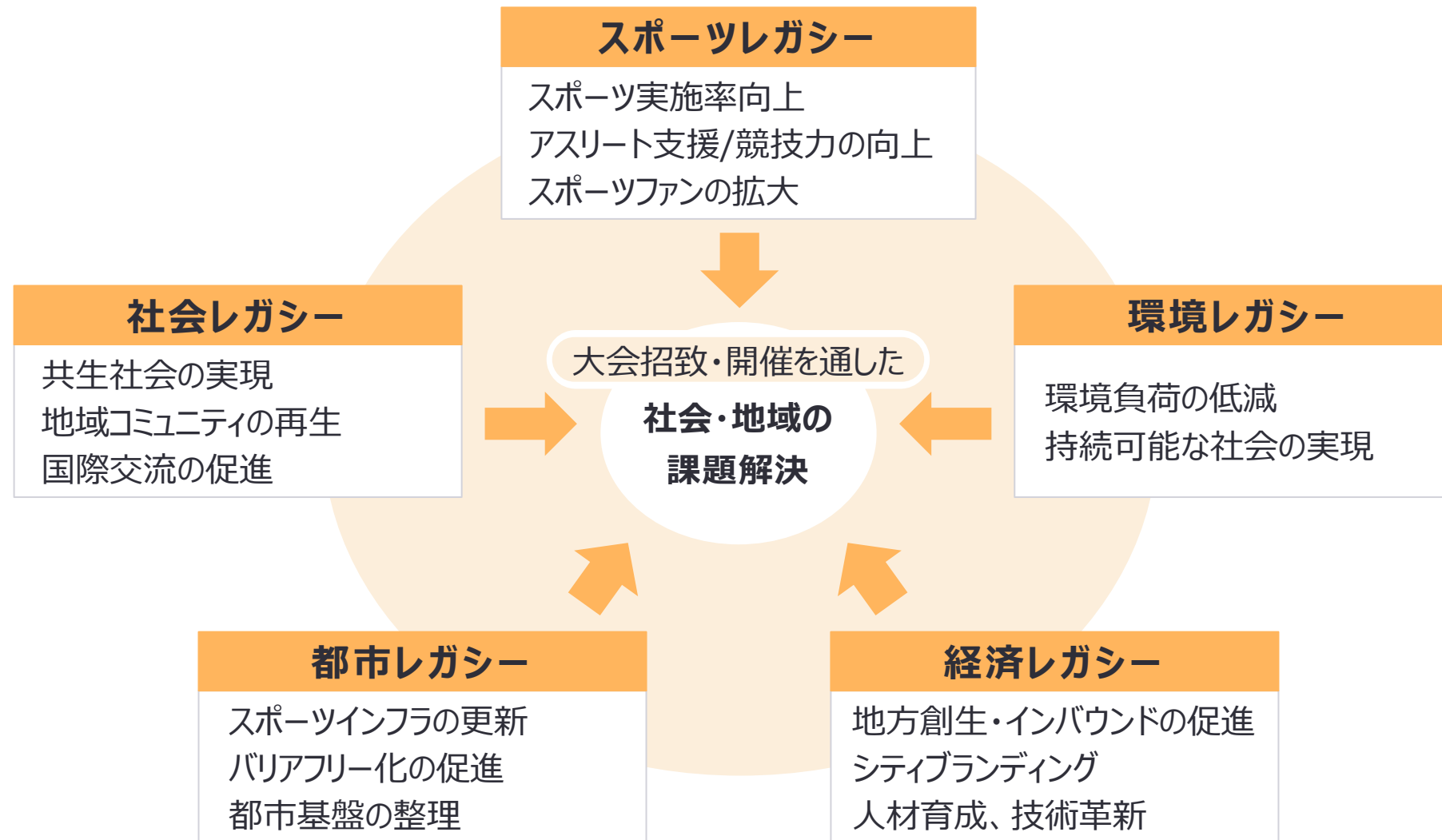
【ネガティブ×偶発的×無形】
例：住民の反対運動

大会開催によるレガシーとして
理解されやすい

マネジメントし、
極力減らしていく努力が必要

国際競技大会の開催によって得られる主な効果

手引き P.13



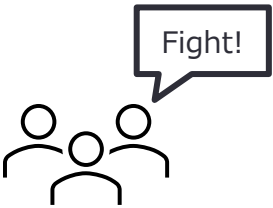
国際競技大会の開催によって得られるスポーツレガシーとは？

スポーツレガシー

スポーツ実施率向上
アスリート支援/競技力の向上
スポーツファンの拡大

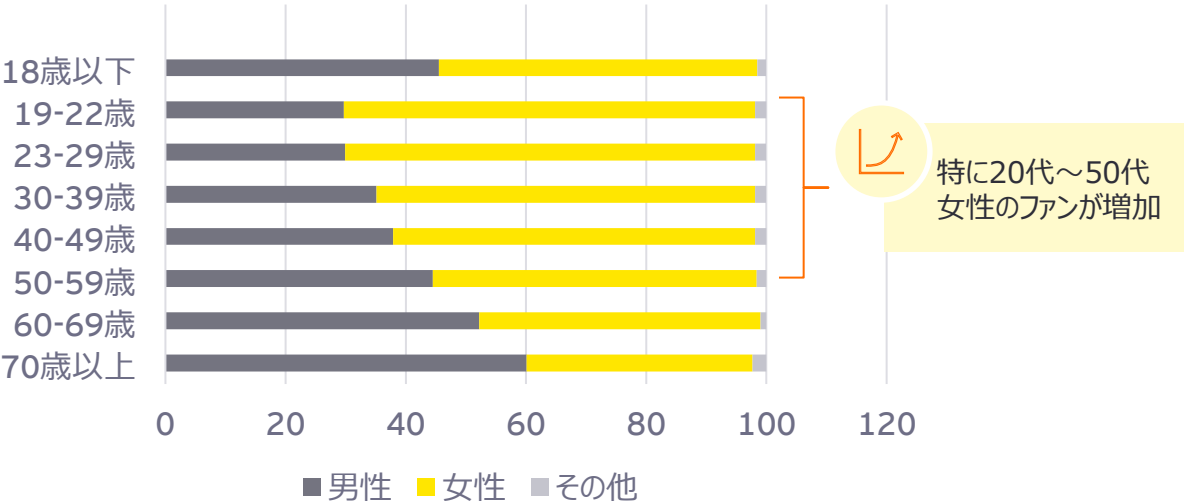
手引き P.15

ファンの増加：FIBAバスケW杯2023

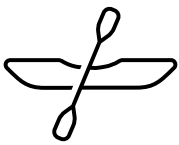


国際大会を開催することによって、**新たな競技ファンを獲得**することが期待される

- ▶ 国内バスケットボールリーグであるB.LEAGUEは、大会開催を経て多くの新規ファンを獲得
 - B.LEAGUE ID登録者数 → **371%増**
 - チケット購入枚数 → **201%増**
 - B.LEAGUEサイト新規ユーザー流入数 → **560.24%増**



競技人口の増加：山形県西川町 月山湖におけるカヌー事業



国際大会の開催を契機に、市民向けの競技イベントやプログラムを提供することで、**競技の認知度の向上や、競技人口の増加**につながることが考えられる

- ▶ 東京2020大会においてモルドバ共和国のカヌー競技代表チームの事前キャンプを受け入れホストタウンとなったことを契機として、2020年より「モルドバカップ」を開催している
- ▶ 西川町では、月山湖でのカヌー・スプリントをテーマにした地域おこしを実施しており、地元小学校の授業にカヌーを組み込む等、地元住民にとってカヌーを身近なものにすることで競技者人口の拡大に成功。さらに日本代表選手や五輪選手も輩出



月山湖の様子

国際競技大会の開催によって得られる社会レガシーとは？

社会レガシー

共生社会の実現
地域コミュニティの再生
国際交流の促進

手引き P.16

共生社会の実現：2024世界パラ陸上



様々なバックグラウンドを持つ人々が集まることで、**一人ひとりの違いを認め合う共生社会**を実現する

- ▶ 大会組織委員会は、体験プログラム「パラレゾ」を創設
- ▶ 神戸市民に対し、for school、for communityの2つの柱でパラスポーツを通じた共生社会の実現に向けた学びの機会を提供



パラレゾ実施の様子

地域コミュニティの再生：RWC2019



域内外の関係者や地元団体、住民等を巻き込むことで、**地域コミュニティの再生・組成**につながる

- ▶ 2011年、「ラグビーワールドカップ2019日本大会の地元開催を契機とした東北復興」を掲げスクラム釜石を組織
- ▶ 組織を中心に、域内外の関係者、地元団体、住民等を巻き込みながら地元自治体への招致要請活動を実施



RWC2019 釜石誘致タウンミーティングの様子

国際交流の促進：FIBAバスケットボール杯2023



様々な国・地域から選手が集まることで、**地元住民の国際交流や異文化体験**を促進する

- ▶ 地元児童約1万人を試合に無料招待
- ▶ 授業の一環として大会共催国のインドネシアの子供たちとオンラインで交流できる場を創出
- ▶ 332の地元小中学校の給食に試合出場国の料理を出し異文化体験を行う



出場国のスロベニアにちなんだ給食の様子

国際競技大会の開催によって得られる環境レガシーとは？

環境レガシー

環境負荷の低減
持続可能な社会の実現

手引き P.17

環境負荷の低減：ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会

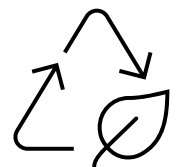
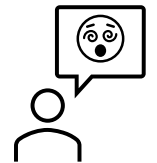


競技の実施が可能な環境を整えることを通して、**環境負荷の低減**につながる



2024年大会の様子

- ▶ 大会開催前、横浜市は「会場となる横浜港では泳げない」というイメージに悩まされていた
- ▶ 海の水質浄化を進め、大会を継続開催する中で、トライアスロン選手が泳ぐ様子の中継等で流すなど、そのイメージの払しょくに成功
- ▶ 他にも、World Triathlonのサステナビリティ認証機関 Sustainability Commissionから最上位のGOLD認証獲得を通し、持続可能な大会作りを通じた環境改善に取り組む



国際競技大会の開催によって得られる環境レガシーとは？

環境レガシー

環境負荷の低減
持続可能な社会の実現

手引き P.17

持続可能な社会の実現：GRAND CYCLE TOKYO／東京2020大会



持続可能な社会を実現するための施策を打つ契機として、国際大会や競技を活用することができる

GRAND CYCLE TOKYO事業



- ▶ 環境にやさしく、健康にもよい自転車を更に身近なものとするため、自転車に関する様々なイベント等を総合的に推進
- ▶ 臨海部で「レインボーライド」、「マルチスポーツ」を、多摩地域で本格的な自転車ロードレース「THE ROAD RACE TOKYO」を開催

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト



- ▶ 使用済み携帯電話やデジカメ、パソコン等の小型家電を集め、抽出したリサイクル金属を原材料にアスリートに授与するメダルを製作
- ▶ 国内全市区町村の9割以上にあたる1,621の自治体が参画。日本全国にリサイクル活動が広がる契機になった

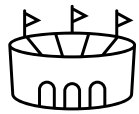
国際競技大会の開催によって得られる都市レガシーとは？

都市レガシー

スポーツインフラの更新
バリアフリー化の促進
都市基盤の整理

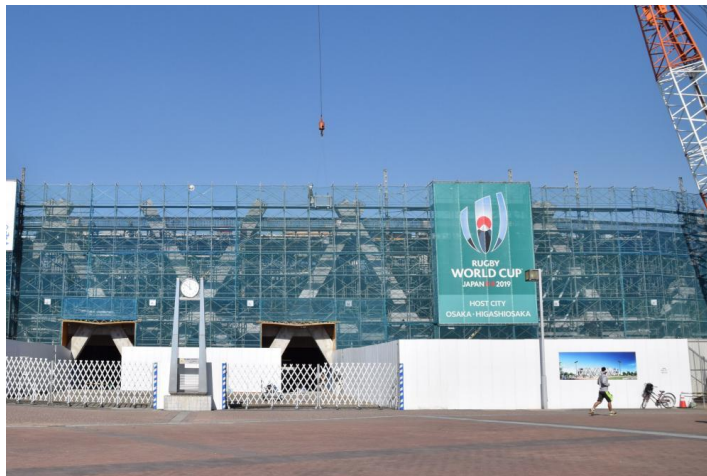
手引き
P.18,19

スポーツインフラの新設・更新：RWC2019



国際大会で使用する施設が、**新設**される、または**国際大会基準を満たした施設**として改修される

- ▶ 東大阪市花園ラグビー場は大会に合わせ2017年2月から大規模な改修を実施
- ▶ 大型映像装置や個別席を設置し、ナイター照明が設置されることでW杯基準を満たすスタジアムとなった



工事中的花園ラグビー場

バリアフリー化の促進：2024世界パラ陸上



国際大会で使用する施設の**設備**が、**バリアフリーに配慮した設備**へ改修される

- ▶ ユニバー記念競技場でも、大会の開催に合わせ改修を実施
- ▶ トイレをバリアフリー化し、車いすが出入りしやすいようにスロープを拡幅。場内の大型ビジョンを一新し、メインスタンドの座席も取り換えを行った



改修後のユニバー記念競技場の様子

都市基盤の整備：東京2020大会



国際大会を開催するために、**各種施設、住居、交通インフラ等の都市基盤が整備**される

- ▶ 東京2020大会では、晴海五丁目西地区において、選手村の整備と大会後のまちづくりを市街地再開発事業にて実施
- ▶ 住居、複合施設などの建物に加え、交通網の整備も実施



住居エリアのイメージ

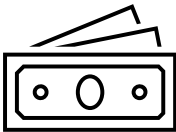
国際競技大会の開催によって得られる経済レガシーとは？

経済レガシー

地方創生・インバウンドの促進
シティブランディング
技術革新

手引き P.20

地方経済・インバウンドの促進：RWC2019



大会会場を全国に分散させることで、日本全国の複数エリアに国内外からの来場者を招くことができ、幅広い経済効果を獲得することを可能にする

地方経済

- 大会開催を通じて6,464億円の経済波及効果を記録（直接効果3,157億円、間接効果2,172億円、第二次間接効果1,135億円）
- さらに46,340人の雇用創出効果も記録

全国12の開催都市 55か所の公認キャンプ会場



インバウンド

- 経済波及効果は3,482億円、GDP増加分は1,829億円
- 訪日客は約242,000人（うち、欧州約131,000人、オセアニア約54,000人、アジア約22,000人、北米約17,000人、南米・アフリカ各約9,000人）
- 来場者は平均で1人当たり686,117円を消費（2018年訪日外国人の平均消費額は147,907円）



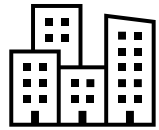
国際競技大会の開催によって得られる経済レガシーとは？

経済レガシー

地方創生・インバウンドの促進
シティブランディング
技術革新

手引き P.22

シティブランディングの強化：AJRUアジア/IJRU世界ジャンプロープ選手権



開催都市の強みを生かした大会を開催することで、
シティブランディングを強化する

- ▶ 川崎市では、川崎らしい地域資源である「若者文化」について、体験会の開催や、活動の場づくり、国内外の大会の誘致などを展開
- ▶ 市のストリートカルチャーや、若者の挑戦を応援する姿勢を発信することで川崎市の魅力を高め、若い人たちが挑戦できる環境作りを進めている

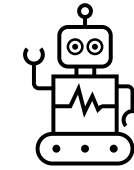


若者文化推進キービジュアル



INTERNATIONAL STREET
FESTIVAL KAWASAKI 2024の様子

技術革新：RWC2019／東京2025デフリンピック



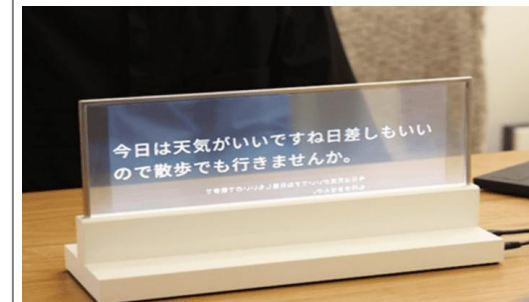
大会の開催を契機に、最新テクノロジー技術を利用した
様々な製品・サービスが発表・使用される

顔認証システム



- ▶ 東京スタジアムと横浜国際総合競技場における、メディア関係者の本人確認に利用
- ▶ 顔認証とIDカードによる本人確認を同時に実施することで、スムーズかつ正確な本人確認を実現

音声を多言語で表示する透明ディスプレイ



- ▶ 音声を多言語表示する透明ディスプレイを都が保有する110の施設に設置
- ▶ 会話をリアルタイムで文字に変換し、多言語で表示をすることで、障がいの有無や言語の壁を越えたコミュニケーションを実現

国際競技大会の開催によって得られるレガシーを最大化するためには？

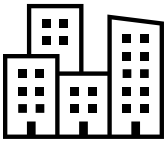
手引き P.14

Key points

国際競技大会を開催するだけでレガシーが形成されるわけではなく「開催目的の明確化」を行い、「レガシー形成を前提としたステークホルダーとの調整や取り組みを進める」と同時に、「成果評価の指標設定や効果測定を行うことで、その成果を十分に検証する」等、適切なマネジメントを行うことが重要です

1 開催目的の明確化

- 大会の招致・検討段階で、現状に鑑みて、大会の招致・開催を通して開催都市や社会にどのような変革をもたらしたいか、何を解決したいかといったことを明確にすることで、大会を通じて得られる効果を最大化できる

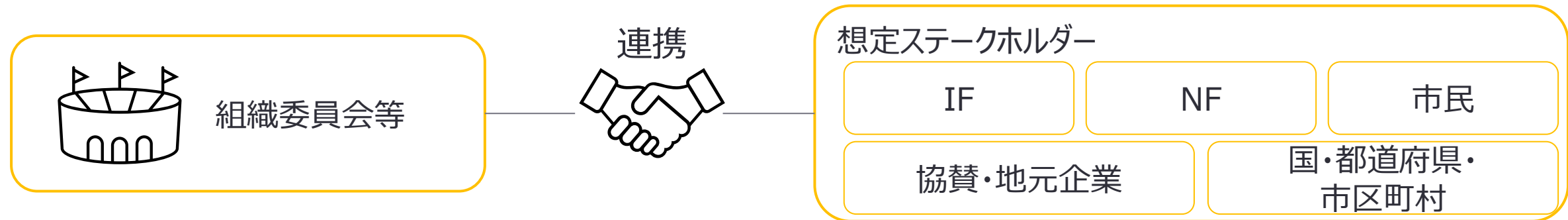
開催自治体の視点 	- 自治体の政策計画やまちづくり計画等と整合は取れているか？ - 地域におけるスポーツ文化（日常的な運動習慣の獲得、競技普及や競技人口増大、ファン層の新規獲得 等）に繋がるか？ - 地域における社会的な課題（人口減少、少子高齢化、地域コミュニティの立て直し、教育の充実、国際交流の促進 等）の解決に繋がるか？
競技団体の視点 	- 競技団体としての経営戦略や計画等との方向性と整合は取れているか？ - 競技振興（競技普及や競技人口増大、ファン層の新規獲得 等）に繋がるか？
時代の変化 社会的要請 	グローバルな社会課題や社会的要請を実現、イノベーションを起こしていく取り組みに繋がるか？（例：DE&I、地球環境保護 等）

国際競技大会の開催によって得られるレガシーを最大化するためには？

手引き P.14

2 レガシー形成を前提としたステークホルダーとの調整や取り組み

- ▶ 大会の招致・開催には多くのステークホルダーが関わっており、大会の成功にはステークホルダーの理解が不可欠
- ▶ 組織委員会等は、ステークホルダーとの間で、大会の意義に関する説明をはじめ、十分にコミュニケーションを取ることが必要



3 成果評価の指標設定及び効果測定による検証

- ▶ 成果指標を事前に設定することは、組織委員会等、内部での目標等に関する認識を合わせるために有用であるとともに、開催の意義を対外的に説明する際にも重要
- ▶ 大会終了後に効果を測定することは大会開催の説明責任を果たすために必要であるとともに、今後の大会招致・開催の検討を行ったり、目的を設定したりする上でも有用

国際競技大会の招致に取り組むにあたり、それぞれの地域や社会の抱える課題や特性を踏まえてターゲット設定するだけでなく、開催決定後も大会終了後のレガシー形成を踏まえた取り組みを計画的に進めていくことが重要です